

2012年 11月 13日

2012年度採択 研究の国際化推進プログラム 研究成果報告書

採択者 (研究代表者)	所属機関・職名：国際関係学部・教授 氏名：文京洙
研究課題	東北アジアの安全保障と信頼醸成

I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

東北アジアの安全保障政策について、立命館大学コリア研究センター(以下、当センター)で推進している R-GIRO 研究プログラム「東北アジア・朝鮮半島と日本の疎通と協働—平和構築の視点から」に関連付け、研究成果を国際学術会議などを通して幅広く知らせることを目的とする。

【課題1】 朝鮮民主主義人民共和国(以下、北朝鮮)をとりまく東アジアの安全保障政策について、国際的な視野を念頭に研究を進める。

(1) 2012年4月25日に東国大学(ソウル)で行われる国際シンポジウムに研究メンバーが参席、最新の研究報告を行う。このシンポジウム(以下、シンポ)は、2009年11月に当センターと東国大学北韓学研究所が締結した学術交流協定に基づいて行われる。

(2) 北朝鮮側の対日政策および対東アジア政策について、最新動向を踏まえて研究を進める。朝鮮半島をとりまく東北アジアの安定と安全保障体制について北朝鮮側の視点を調査すべく、研究メンバーの何人かが訪朝し、外務省関係者および研究者に聞き取り調査を行う。そこで得た最新情報をもとに分析をすすめる。

【課題2】 現代韓国をとりまく国際関係および民主主義についての研究をすすめる。

2012年5月11日に「済州四・三を考える会・大阪」との共催で、「JAM DOCU 江汀」上映会・監督トークを開催する。済州島における軍事基地問題という点で国際政治学に関連するだけでなく、地元住民の生活権という点で韓国の民主主義を考えることに、済州四・三事件との連続性という点で歴史理解にも深く関わる問題である。

II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

1. 東北アジアにおける安全保障政策における、立命館大学コリア研究センターの提言力の強化：

まず、**【課題1】**では東国大学北韓学研究所と当センターが共催で国際シンポジウム「金正恩体制公式出帆と北朝鮮の対外関係」を開き、研究メンバーが当センターの安全保障研究の成果を代表して発表した。韓国における南北関係・安全保障研究に強い影響力を持つ東国大学北韓学研究所とセッションできた意味は大きい。東アジアにおける安全保障研究の分野での当センターの役割は漸進が期待される。さらに、共催した吉林大学東北アジア研究院と当センターとは、シンポジウムをきっかけに2013年3月に学術交流協定を締結する段取りとなった。次回の3大学共催の国際シンポジウムは、吉林大学で行うことも検討されている。また、**【課題2】**を遂行したことによって、北朝鮮側の対日政策および対東アジア政策について多くの収穫を得ることができた。これは、これから当センターが安全保障研究を遂行する上での貴重な基礎資料となる。**【課題1】****【課題2】**で得られた成果は元来ならば当センターが発行する学術誌『コリア研究』誌上にて一部発表予定であったが、研究成果が大きかったため別途書籍などの形で発刊を検討中である。

また、**【課題3】**については、来場者が100人を超えたため、済州島で建設中の海軍基地の問題が、韓国の国内問題にとどまらず、東アジアの「人間の安全保障」とも密接にからまっているということ、日本の研究者・市民と共有できた。日本での上映はこの会が初めてであり、以降の上映会(北海道・大阪など)にも大きな影響を与えた。資料集も充実させたので、近日中に当センターHPなどを通して公開する予定である。